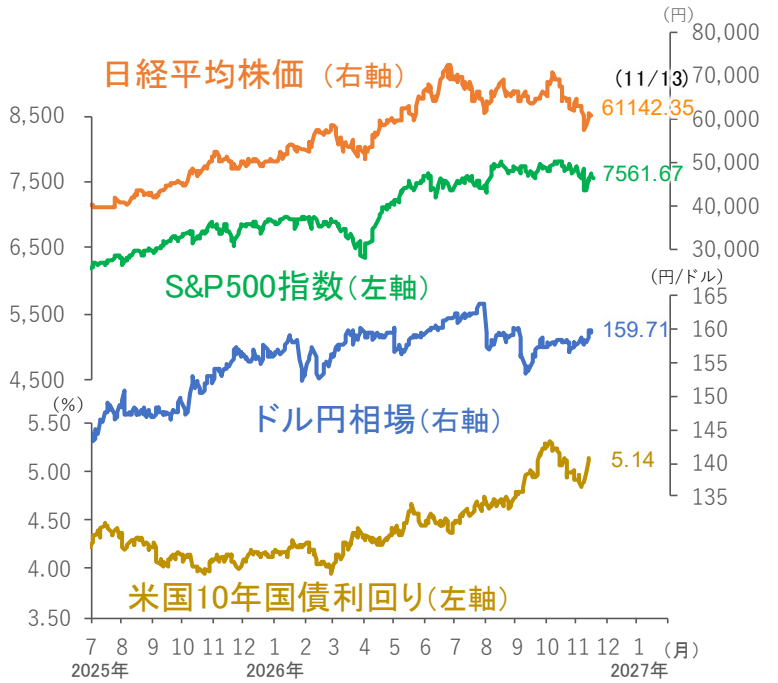
マーケット・レポート

Weekly Guide 2026.11.16

りそなアセットマネジメントのYouTubeチャンネルで、音声付きの解説動画をご視聴いただけます！

主要マーケット指標



【出所】ブルームバーグの公表データに基づき、りそなアセットマネジメント作成

先週は、前週に大幅下落したAI半導体関連株が買い戻される一方、債券市場では10月米CPIが市場予想を上回ったことで12月FOMCにおける0.5%の追加利上げ観測が浮上し、大幅反落（利回り上昇）となりました。主要株価指数の週間騰落率は、S&P500指数が+2.5%、ナスダック総合指数は+2.3%となり、いずれも5週ぶりに反発。独DAX指数は3週続伸の+3.6%、前週▲9.3%の大幅下落となった日経平均株価は+6.5%反発しました。10年国債利回りは、米国が前週末比+28bpの5.14%、ドイツは同+12bpの3.38%、日本は同+22bpの2.87%に上昇しました。為替市場ではFRBの大幅利上げ観測を背景にドルが全面高となりドル円は一時9月初旬以来の160円台乗せとなりました。

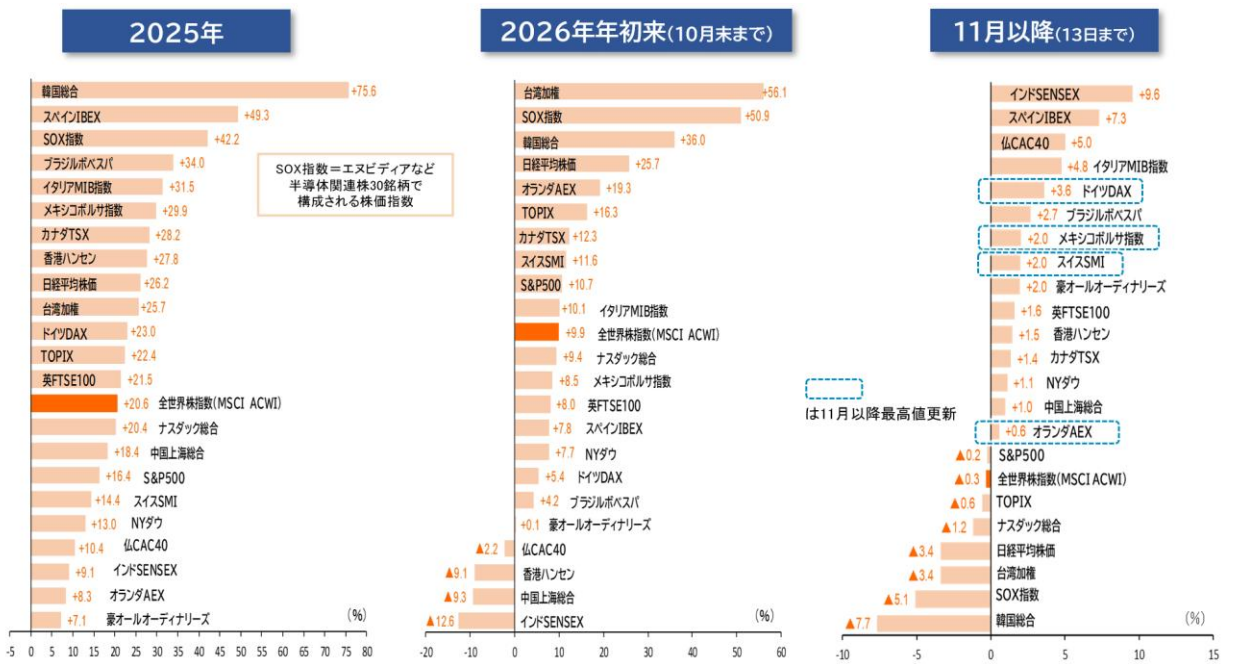
今週は、国内では7-9月期GDP速報値、10月CPIが注目材料となります。海外では、エヌビディアの8-10月期決算発表、アンソロピックのナスダック新規上場に市場の関心が集まります。

当面の注目イベント

◆日・7-9月期GDP速報値	（16日）
◆米・エヌビディア8-10月期決算発表	（17日）
◆日・10月貿易統計	（18日）
★米・11月NAHB住宅指数	（18日）
◆米・アンソロピック新規上場（ナスダック）	（19日）
◆日・10月コアCPI	（20日）

★：りそな景気先行指数関連指標

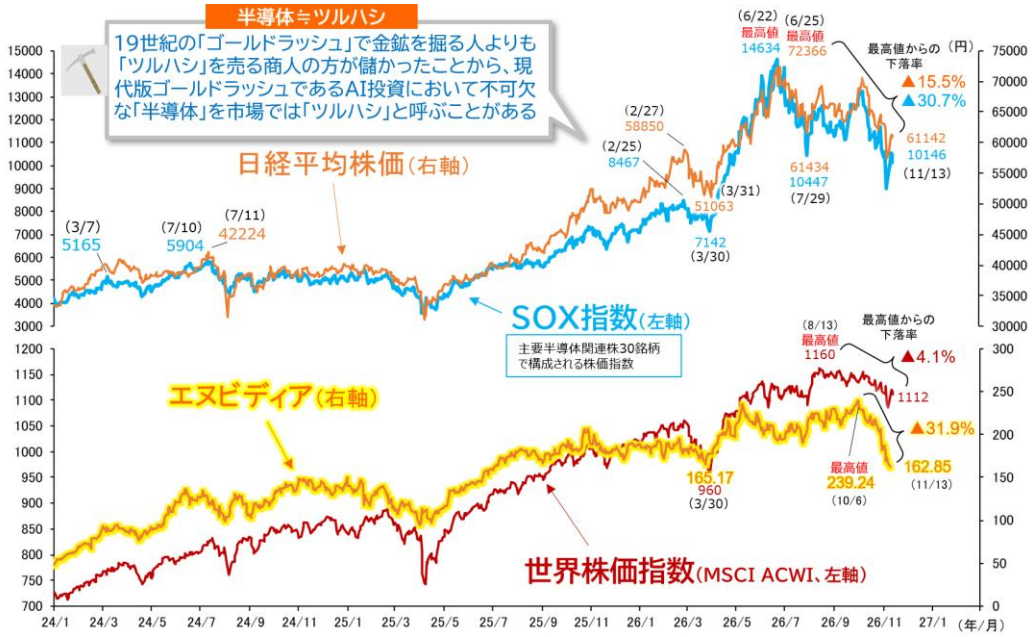
11月以降の世界株市場では、AI・半導体関連株の比重が高い韓国・台湾の株価指数や日経平均株価が下落する一方、同分野の比重が低い欧州・インドは上昇しており、AI・半導体関連株の動向が明暗を分けています



【出所】ブルームバーグの公表データに基づき、りそなアセットマネジメント作成

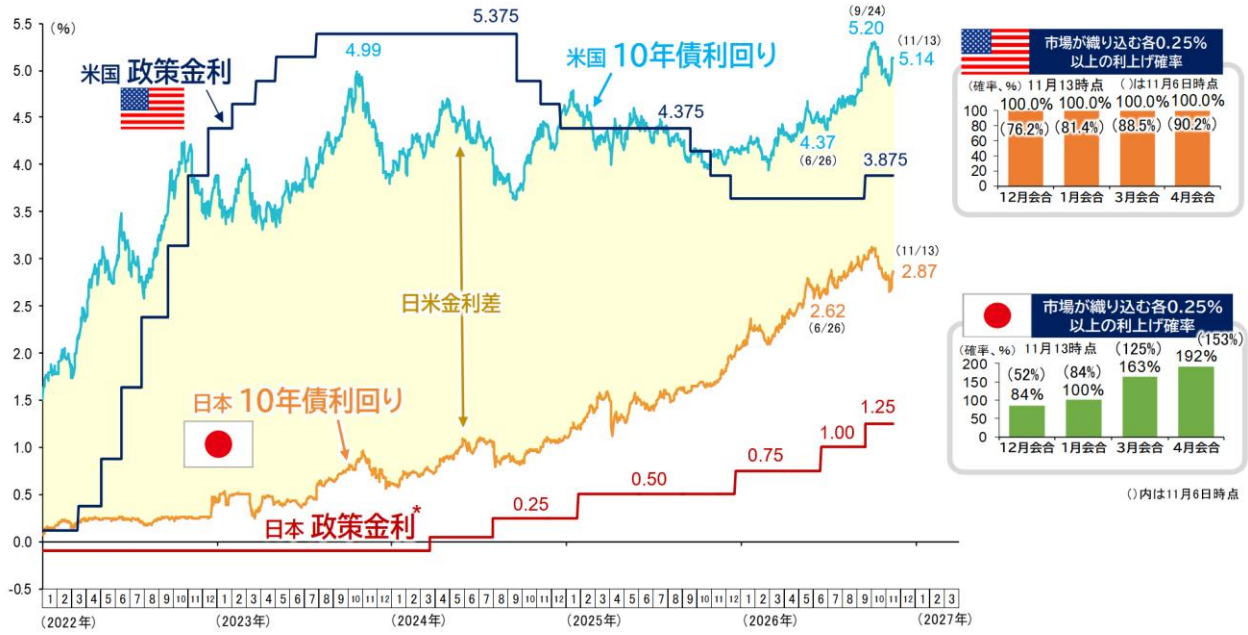
※最終ページの＜当資料に関するご留意事項＞を必ずご覧ください。

今週は、エヌビディアの8-10月期決算発表（17日）とアンソロピックのナスダック新規上場（19日）に市場の関心が集まります。両イベントを無難に通過し、AI半導体関連株が再び騰勢を強めるか注目されます



【出所】ブルームバーグの公表データに基づき、りそなアセットマネジメント作成

市場は12月FOMCで追加利上げが実施される確率を100%と織り込んでおり、焦点は0.5%の大幅利上げの有無に移っています。一方、日銀12月会合については、84%の確率で追加利上げが織り込まれています



＊ 日本の政策金利：2024年3月19日までは日銀当座預金金利、2024年3月21日以降は無担保コール翌日物金利

【出所】CMEグループ、東短リサーチ、ブルームバーグの公表データに基づき、りそなアセットマネジメント作成

次回は 2026年11月30日 発行予定です

〈当資料に関するご留意事項〉

■当資料は、りそなアセットマネジメント株式会社が投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。■当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、りそなアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。なお、掲載されている見解は本資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また、事前の連絡なしに変更されることがあります。■投資信託は、値動きのある資産を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。■投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします最新の「投資信託説明書（交付目論見書）」および一体としてお渡しする「目論見書補完書面」を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。